NAGASE
Delivering next.

2024年度
第2四半期　決算説明会資料

長瀬産業株式会社　（証券コード：8012）
2024年11月7日

（代表取締役社長　上島宏之によるプレゼンテーション）

皆さん、おはようございます。長瀬産業株式会社代表取締役社長の上島でございます。
日頃は皆さんに大変お世話になり、ありがとうございます。

それでは早速、2024年度第2四半期決算説明会を開催させていただきます。

エグゼクティブサマリー

2024年度 第2四半期決算	↘ Prinovaグループは製造業の厳しい状況が継続、貸倒引当金の計上もあり減益 ↘ ナガセヴィータは最終消費地である中国での需要低迷による香粧品向け機能性素材の販売が低調だったことにより、減益 ↗ 半導体業界や電機・電子業界等の緩やかな回復により、機能素材や加工材料、電子・エネルギーセグメントの商社業が好調 ↗ ナガセケムテックスが製造する生成AI等のハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が好調 ↗ 改善領域への取組みとして、赤字幅の大きかった米国のカラーフォーマー事業から撤退、営業損失削減に寄与 ● ROIC経営を追求し収益性が向上、売上総利益率:17.5%→19.2%へ改善
2024年度 通期見通し	↘ Prinovaグループの製造業は想定以上の低調な推移が下期も継続する見込み ↗ 生成AI等のハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂販売は、下期も好調を見込み、ラインを増設 ● 事業毎に好不調はあるが、連結全体で見通しは修正せず、過去最高の営業利益を見込む（セグメント別の見通しは修正あり）
中期経営計画 **ACE 2.0** について	● 成長戦略における取組み ● 株主還元の変更(2024年度の配当を増額) ● サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

本日、お伝えしたいことをエグゼクティブサマリーにまとめました。まず、2024年度第2四半期決算におきまして、期初の想定を下回った事項が2点、そして上回った事項が3点ございます。
下回った事項の1点目は、生活関連セグメントのPrinovaグループの事業です。第1四半期決算説明の際にもご説明させていただきましたが、製造業の厳しい状況が続いていること、貸倒引当金の計上もあり、前年同期比で営業利益が減益となりました。
二つ目が、同じく生活関連セグメントのナガセヴィータの事業です。香粧品向けの機能性素材の需要期である第1四半期に、香粧品の最終消費地、特に中国での需要が低調に推移したことにより、販売が期初想定を下回り、前年同期比で営業利益が減益となりました。
一方、上回った事項の一つ目ですが、商社ビジネスにおきましては、各業界、緩やかに回復基調に入り、昨年積み上がっていたお客様での製品や中間在庫の調整が完了し、機能素材、加工材料、電子・エネルギーにおいて受注が好調に推移し、前年同期比で営業利益が増益となりました。
二つ目は、ナガセケムテックスの液状封止材。こちらは生成AI市場の想定以上の成長を受け、ハイエンドサーバー用の半導体向けの販売が好調に推移いたしております。
三つ目は改善領域の取り組みの一環として、昨年、赤字額の大きかったアメリカでのカラーフォーマー事業の撤退作業が完了し、営業損失の削減が寄与しています。製造ビジネス、商社ビジネスともに、内部努力による効率性、収益性の改善が進み、売上総利益率で17.5%から19.2%に改善することができました。
昨年度は、下回った事項として、カラーフォーマー事業と加工材料セグメントの樹脂販売事業、それに、Prinovaグループのユタ工場での製造事業の件をサマリーで挙げておりましたが、カラーフォーマー事業と樹脂販売事業につきましては改善が進んでおります。
次に2024年度の通期見通しに関してですが、Prinovaグループの関連する北米食品素材は市況が回復すると見ておりましたが、上期に引き続き下期も低調な推移が続くと想定しております。生成AI向けハイエンドサーバー用の液状封止材につきましては、下期も上期同程度の出荷を見込んでおります。既に来年以降の市場の拡大を見込みラインの増設を完了し、下期より稼働を開始いたしました。
事業ごとに好不調はございますが、全体として過去最高の営業利益を見込んでおります。
中期経営計画**ACE 2.0**につきましては、成長戦略の取り組み、株主還元の変更、マテリアリティの見直しについてご説明をさせていただきます。

各セグメントの事業環境

業界	24年度通期に対する当初想定		上期の動向		下期の動向		セグメント
塗料	自動車用途は引き続き堅調だが、全体として概ね横ばい		自動車・建築用途ともに伸び悩み、全体として概ね横ばい		国内自動車メーカーの挽回生産あるもアジアは低調は継続見込み。		機能素材
カラーフォーマー	供給過多の状況は継続し市況は低迷が続く		米国におけるカラーフォーマー事業から撤退。国内事業も縮小均衡。				
半導体	緩やかに回復し、年後半は本格的に回復、ハイエンド向けは好調継続		カテゴリにより回復にばらつきがあるが、ハイエンド向けは需要が好調		ハイエンド向けはより一層需要が高まる		
ディスプレイ	前期比で需要は回復		テレビパネルの国内生産が終了、海外は前期並み		上期並みを継続		電子・エネルギー
スマートフォン	前期比で伸長見込み		ハイエンドは前期比好調。ミドル・ローエンドは中間在庫の影響で低調推移		上期並みを継続		
OA・ゲーム	全般的に需要及び樹脂市況は緩やかに回復		需要及び樹脂市況が緩やかに回復		3Qまで好調継続、4Qは在庫調整局面		加工材料
自動車	緩やかな自動車生産台数の回復が継続		米国は堅調だったが、国内やアジアで自動車生産台数が減少		国内は緩やかに回復するが、アジアは厳しい状況が継続		モビリティ
医薬	需要は増加しているが、先発薬の特許切れ等もあり原料販売は減少		先発・後発薬ともに全体では若干苦戦も、当社取扱品への影響は軽微		上期並みを継続		生活関連
香粧品	全体として需要は回復傾向継続		中国での最終需要伸び悩みにより低調推移		上期並みを継続		
フード	米国市場における需要の回復傾向は継続		想定よりも需要の回復は鈍く、米国市場では市況も低迷		米国の需要回復は引き続き鈍いが一部の市況に緩やかな回復をみこむ		

一過性損失等を除く、NAGASEグループの事業環境（必ずしも一般的な業界動向とは一致しない）

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

こちらに各セグメントに関連する10の業界について事業環境を整理しております。
左の列に24年度スタート時に想定した業界の状況、真ん中の列に上期終了段階での状況、右側の列に下期見通しを書いております。

当初の想定より上期上向いているのが三つの業界。スマートフォン、OA・ゲーム、それと医薬です。一方で、想定より回復が遅れているのが、塗料、自動車、香粧品、フードの四つの業界となります。

下期の動向はおおむね上期の流れを継続する見通しですが、フードについては若干上向くものと予想しております。

目次

■ 2024年度 第2四半期決算概要及び通期見通し　P5～24

■ 中期経営計画 **ACE 2.0**について　P25～36

＜参考情報＞

- ✓ 再掲：資本コストや株価を意識した経営 ー2023年度期末 決算説明会資料よりー
- ✓ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移 ーその他・全社配賦前ー
- ✓ 2021年度～2023年度の主要なキャッシュイン・アウト実績

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

2024年度 第2四半期決算概要
及び通期見通し

■ 連結損益計算書	P6
■ 所在地別 売上総利益	P7
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P8
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P9
■ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P10
■ セグメント概況	P11～P15
■ 主要製造子会社概況	P16～P18
■ 連結貸借対照表	P19
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P20
■ 2024年度 通期業績見通し	P21～P23
■ 株主還元状況	P24

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

連結損益計算書

- 第2四半期累計での売上総利益は過去最高となり、全事業セグメントにおいて売上総利益率が向上
- 物流コスト上昇を受けた販売費や人件費等の一般管理費が増加したが、営業利益は第2四半期累計で過去最高となり、営業利益率も向上
- Prinovaグループの製造業が厳しい状況だったものの、連結全体としては通期見通しに対し順調に進捗

（億円）

	2023年度 第2四半期	2024年度 第2四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	4,501	4,809	307	107%	9,400	51%
売上総利益	788	921	132	117%	1,800	51%
<利益率>	17.5%	19.2%	1.6ppt	–	19.1%	–
販売費及び一般管理費	644	710	66	110%	1,435	–
営業利益	144	210	65	145%	365	58%
<利益率>	3.2%	4.4%	1.2ppt	–	3.9%	
経常利益	142	202	60	142%	352	58%
親会社株主に帰属する四半期純利益	102	159	57	156%	280	57%
US$レート（期中平均）	@ 141.1	@ 152.8	@ 11.7 円安		@ 148.0	
RMBレート（期中平均）	@ 19.7	@ 21.2	@ 1.4 円安		@ 20.0	

※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2023年度 第2Q △1,320億円 2024年度 第2Q △1,355億円
※ 為替の影響【売上総利益】+44億円【営業利益】+7億円

NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

連結損益計算書になります。

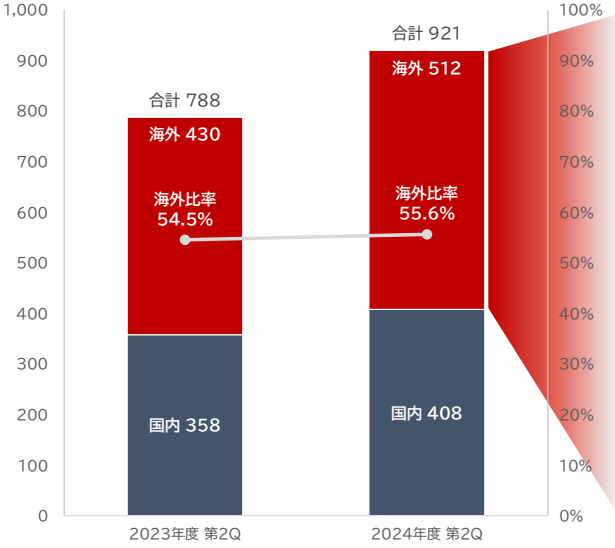
売上高は前年同期と比較し増収となり、売上総利益以下全ての利益におきまして増益となりました。第2四半期累計で売上総利益、営業利益ともに過去最高の数字となります。

また、昨年より利益率の改善を進めておりますが、売上総利益率は全セグメントで向上し、全体として19.2%と、1.6%向上しております。なお、営業利益は売上総利益の増加に加えまして、カラーフォーマー事業の赤字削減などの効果により、210億円となっております。営業利益率も1.2%向上し、4.4%となっております。

所在地別 売上総利益

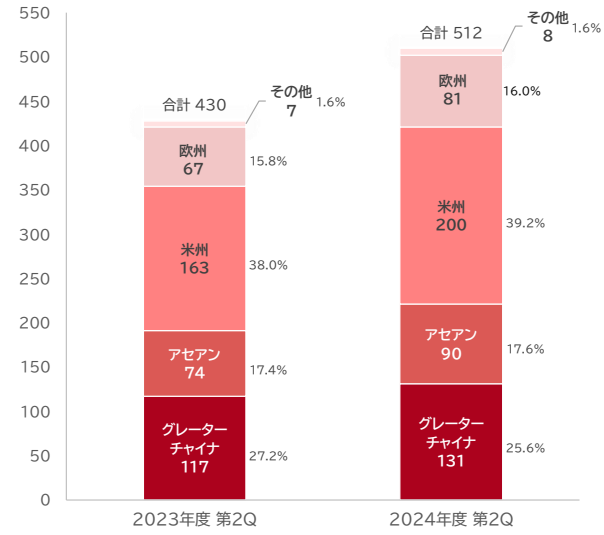
- 国内外ともに増益
- 国内は主に半導体業界向けの原材料や変性エポキシ樹脂の販売増加により、増益
- 海外は円安による影響に加えて、主に欧米における食品素材販売や、アセアンにおける樹脂販売の増加により増益

国内・海外売上総利益(億円)



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含む

海外売上総利益の地域別内訳(億円)



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

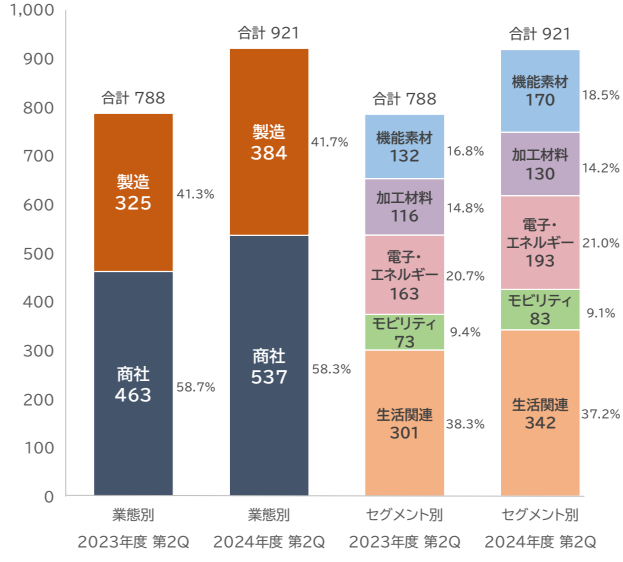
所在地別売上総利益です。

国内、海外ともに増益、海外は全地域で増益となりました。
海外比率は55.6%と、前年同期比で1.1%上昇しております。特に米州が37億円の増加。
こちらは円安の影響に加えまして、食品素材の販売好調が貢献しております。

業態・セグメント別売上総利益 2期比較

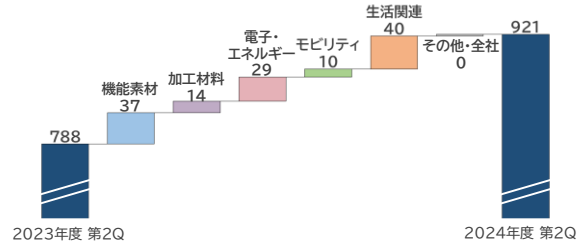
- 商社業は半導体業界や電機・電子業界等の緩やかな回復により、機能素材や加工材料、電子・エネルギーが好調に推移し、約74億円の増益
- 製造業は生活関連におけるPrinovaグループの食品素材販売増加、機能素材におけるカラーフォーマー事業の損失削減、電子・エネルギーにおけるナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂販売増加等により約59億円の増益
- セグメント別では生活関連、機能素材、電子・エネルギーセグメントが大きく伸長（詳細はセグメント概況にて説明）

業態・セグメント別 売上総利益(億円)

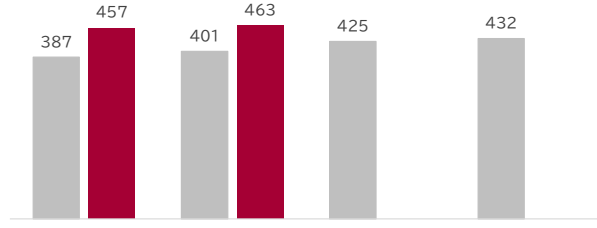


※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

セグメント別 売上総利益 増減(億円)



売上総利益 四半期推移(億円)



NAGASE | Delivering next.
Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

業態・セグメント別の売上総利益になります。

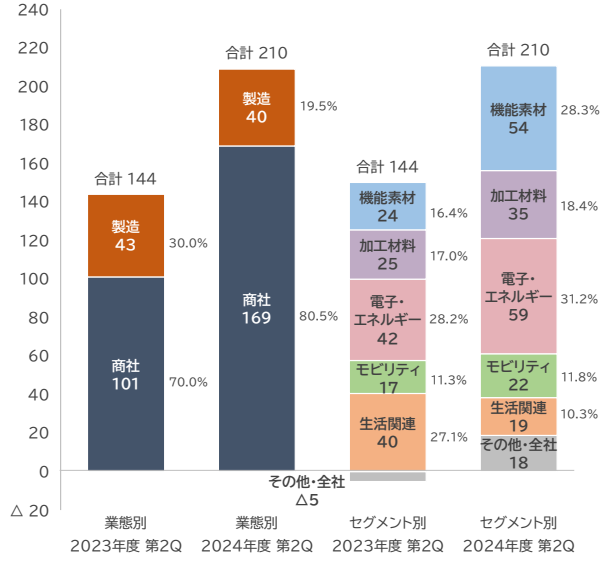
商社ビジネスにつきましては、市場全体が緩やかな回復基調にあり、ケミカル、プラスチック、電子部品などが好調に推移し、74億円の増益となっております。

また、製造ビジネスにつきましては、生活関連セグメントにおけるPrinovaグループの食品素材の販売増加、機能素材セグメントにおける米国のカラーフォーマー事業の撤退による損失削減、および電子・エネルギーセグメントにおけるナガセケムテックスの封止材の販売好調により、59億円の増益になっております。

業態・セグメント別営業利益 2期比較

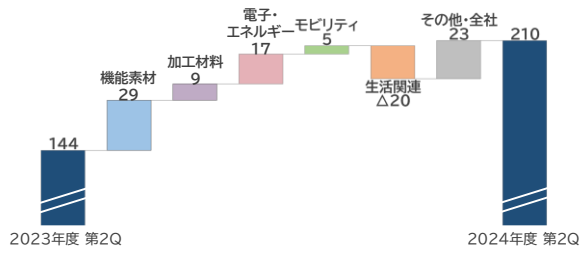
- 商社業は売上総利益の増加に加え、数理計算上の差異の影響により約68億円の増益
- 製造業はナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂関連の販売好調やカラーフォーマー事業の損失削減等があったものの、Prinovaグループの減益による影響により、全体として約3億円の減益
- その他・全社は主に数理計算上の差異の影響により増益
（退職給付の数理差異：2023年度通期 約9億円の費用、2024年度通期 約35億円の収益　四半期毎に均等按分し計上）

業態・セグメント別 営業利益(億円)

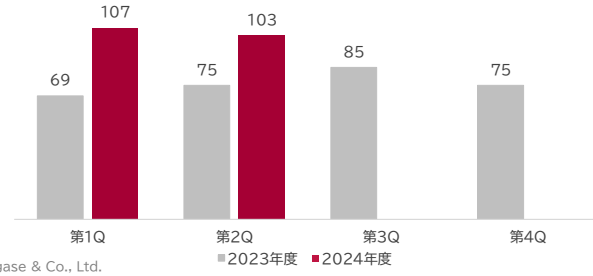


※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益 四半期推移(億円)



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

業態セグメント別の営業利益となります。

商社ビジネスは、先ほど申し上げたとおり、全セグメントでの事業が好調に推移したことに加えまして、右側のウォーターフォールチャートで示しております、その他・全社の費用に含まれます退職給付の数理差異、こちらがプラス22億円の影響も含んでおり、大きく増益となっております。

製造ビジネスは、先ほど申し上げておりますナガセケムテックスの封止材の販売好調、およびカラーフォーマー事業の損失削減がプラスに寄与する一方で、Prinovaグループの一般管理費等の増加と貸倒引当金の計上などにより、3億円の減益となっております。

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

- 売上総利益は2023年度からの好調が継続
- 第2四半期の営業利益は、製造業はPrinovaグループが低調に推移したこと等により第1四半期を下回った一方、商社業は第1四半期に機能素材で計上した一過性利益の影響があったものの好調継続

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し / 前期実績	進捗率
売上高	当期	2,392	2,417			4,809	9,400	51%
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	4,501	9,001	
	増減率	6.8%	6.9%			6.8%	4.4%	
売上総利益	当期	457	463			921	1,800	51%
	前期	387	401	425	432	788	1,647	
	増減率	18.3%	15.3%			16.8%	9.3%	
<利益率>	当期	19.1%	19.2%			19.2%	19.1%	
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.5%	18.3%	
製造	当期	188	195			384		
	前期	165	160	183	185	325	695	
商社	当期	269	267			537		
	前期	221	241	242	246	463	952	
営業利益	当期	107	103			210	365	58%
	前期	69	75	85	75	144	306	
	増減率	54.3%	37.1%			45.4%	19.2%	
<利益率>	当期	4.5%	4.3%			4.4%	3.9%	
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.2%	3.4%	
製造	当期	24	16			40		
	前期	26	17	25	21	43	91	
商社	当期	83	86			169		
	前期	43	58	59	54	101	214	

※ 製造は製造子会社の合計値
※ 商社は長瀬産業および販売子会社の合計値に加え、その他・全社、連結調整を含む
※ 2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

売上高、売上総利益、営業利益の四半期ごとの推移となります。

第2四半期の売上高、売上総利益は、第1四半期と比較し増加。一方、営業利益につきましては、Prinovaグループの貸倒引当金の影響があり、減益となっております。

セグメント概況 機能素材

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - 塗料原料の販売は自動車用・建築用ともに横ばいだったが市況の上昇により増加
  - 半導体材料の原料販売が増加
  - カラーフォーマー事業は米国での生産停止に加え、日本の製造拠点の事業整理や効率化により損失削減
- 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後）前期実績	進捗率
売上高	当期	405	388			794	1,588	50%
	前期	364	357	375	370	721	1,468	
	増減率	11.4%	8.7%			10.0%	8.2%	
売上総利益	当期	88	81			170	326	52%
	前期	64	68	73	75	132	281	
	増減率	37.8%	19.9%			28.5%	15.9%	
<利益率>	当期	21.8%	21.1%			21.4%	20.5%	
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	18.4%	19.2%	
製造	当期	6	6			12		
	前期	1	1	2	3	3	8	
商社	当期	82	75			157		
	前期	62	66	71	71	129	272	
営業利益	当期	29	24			54	86	63%
	前期	10	14	19	17	24	61	
	増減率	197.2%	67.7%			120.4%	39.6%	
<利益率>	当期	7.3%	6.3%			6.8%	5.4%	
	前期	2.7%	4.1%	5.1%	4.8%	3.4%	4.2%	
製造	当期	2	3			5		
	前期	△3	△2	△2	△1	△5	△9	
商社	当期	27	21			48		
	前期	13	17	21	19	30	71	

【注力施策】

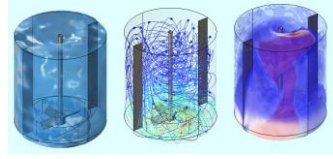
機能化学品事業部

- グローバルな調達力を活かした石化産業や市場の変化を捉えたビジネス機会の獲得
- サステナブルな素材やソリューションの提案

（生分解性バイオSAP、化学品共同物流マッチング、ミキシングコンシェルジュ等）

スペシャリティケミカル事業部

- 市場成長が見込める半導体業界向けケミカルビジネスの拡大
- フロー合成、MOF等、ユニークな技術を活用した事業創出



ミキシングコンシェルジュ
流体を解析・可視化するソフトをNAGASEが開発提供

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

こちらから、セグメント別の概況になります。
まずは機能素材セグメントとなります。

商社ビジネスは、自動車業界、建築業界の需要は低調でしたが、市況の上昇によりまして塗料原料などの売上が増加。半導体業界の回復を受けたレジスト原料の販売も好調に推移し、増益となりました。

製造ビジネスは、カラーフォーマー事業が前年度は営業赤字でしたが、米国での事業撤退、および日本における内部努力による収益性の改善によりまして、増益となりました。
第1四半期から第2四半期にかけて営業利益が減少しているのは、第1四半期に海外における一過性の利益を計上したためです。

セグメント概況 加工材料

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - 樹脂の販売はOA等の電機・電子業界向けの需要回復を受けて増加
  - 製造業は東拓工業の工業用ホース・土木用パイプの販売が増加
- 営業利益は売上総利益が増加を受け、増益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後） 前期実績	進捗率
売上高	当期	535	546			1,082	2,049	53%
	前期	485	536	477	485	1,022	1,985	
	増減率	10.2%	1.9%			5.9%	3.2%	
売上総利益	当期	65	65			130	255	51%
	前期	54	61	61	57	116	236	
	増減率	20.1%	5.4%			12.3%	8.0%	
<利益率>	当期	12.3%	11.9%			12.1%	12.4%	
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.4%	11.9%	
製造	当期	12	12			25		
	前期	11	12	14	11	23	49	
商社	当期	53	52			105		
	前期	43	49	47	46	93	186	
営業利益	当期	15	19			35	59	60%
	前期	10	15	16	11	25	53	
	増減率	56.3%	26.7%			38.5%	11.0%	
<利益率>	当期	3.0%	3.6%			3.3%	2.9%	
	前期	2.1%	2.9%	3.4%	2.3%	2.5%	2.7%	
製造	当期	2	2			4		
	前期	1	2	3	0	4	8	
商社	当期	13	17			30		
	前期	8	13	12	10	21	44	

【注力施策】

ポリマーグローバルアカウント事業部

- グローバルブランドオーナーの生産拠点の変遷に伴い、メキシコ・インド等の注力エリアにリソースシフト
- 環境素材（自社品・他社品）の取扱い拡大
- グローバルでの事業運営の効率化、組織体制の最適化

製造子会社：東拓工業の工業用ホース・土木用パイプ

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

加工材料セグメントです。

商社ビジネスは、特にOAなどの電機・電子業界の需要回復を受け、増収増益となりました。
製造ビジネスでは、資料に掲載しております工業用ホース、土木用パイプを製造している東拓工業の業績が、昨年に引き続き好調に推移しております。

セグメント概況 電子・エネルギー

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - 半導体材料の販売は市況の緩やかな回復を受け増加
  - 変性エポキシ樹脂の販売は、生成AI市場の旺盛な需要を受けハイエンドサーバー用半導体向けが好調に推移し、増加
  - ハイエンドのスマホ・タブレット等の電子デバイス向けの材料販売は需要回復を受け増加
- 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後）前期実績	進捗率
売上高	当期	400	398			799	1,542	52%
	前期	355	356	375	360	712	1,447	
	増減率	12.8%	11.7%			12.3%	6.5%	
売上総利益	当期	95	97			193	386	50%
	前期	77	86	85	92	163	342	
	増減率	23.7%	13.4%			18.3%	12.8%	
<利益率>	当期	23.8%	24.5%			24.2%	25.0%	
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	23.0%	23.6%	
製造	当期	33	35			68		
	前期	27	31	33	39	58	131	
商社	当期	62	62			125		
	前期	50	54	52	53	104	210	
営業利益	当期	27	32			59	108	55%
	前期	17	24	21	25	42	88	
	増減率	55.5%	30.9%			41.3%	22.0%	
<利益率>	当期	6.9%	8.1%			7.5%	7.0%	
	前期	5.0%	6.9%	5.6%	6.9%	5.9%	6.1%	
製造	当期	7	9			17		
	前期	4	8	8	11	13	34	
商社	当期	19	22			42		
	前期	12	15	12	13	28	54	

【注力施策】

エレクトロニクス事業部

- 半導体市場における商材の拡充
  - ・国内生産の拡大を踏まえた事業拡大
  - ・欧米やインド等での事業拡大
- 最先端電子デバイス向けビジネス開発

先進機能材料事業部

- ナガセケムテックスの製品を最先端半導体向けに販売拡大（LMCが最先端半導体向け封止材として圧倒的なシェアを誇る）
- a-SMCで次世代半導体向け封止材のデファクトスタンダードを目指す
- 半導体向け現像液の回収・再生事業の拡大

LMC: Liquid Molding Compound

a-SMC: Advanced Sheet Molding Compound

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

電子・エネルギーセグメントです。

半導体業界全体として回復にばらつきはあるものの、商社ビジネス、製造ビジネスともに増収増益となりました。商社ビジネスは、半導体およびハイエンドスマホ市場の緩やかな回復を受けて、材料販売が増加しました。

製造ビジネスは、生成AI市場の成長により、ハイエンドサーバー用半導体向けに、ナガセケムテックスの液状封止材の販売が当初想定以上に増加しており、増益となっております。
なお、資料に写真を掲載しておりますAdvanced Sheet Molding Compoundは、次世代の半導体向けに開発したシート封止材です。今後、お客様へのスペックイン活動を強化してまいります。

セグメント概況 モビリティ

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - ・ 売上総利益の約半分を占める樹脂の販売は、自動車生産台数の減少があったものの、円安や市況上昇等の影響により増加
  - ・ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後） 前期実績	進捗率
売上高	当期	321	338			660	1,326	50%
	前期	311	337	353	319	649	1,321	
	増減率	3.1%	0.4%			1.7%	0.4%	
売上総利益	当期	40	43			83	165	51%
	前期	34	39	41	37	73	152	
	増減率	17.8%	9.9%			13.5%	8.3%	
<利益率>	当期	12.5%	12.9%			12.7%	12.4%	
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.4%	11.5%	
製造	当期	—	—			—		
	前期	—	—	—	—	—	—	
商社	当期	40	43			83		
	前期	34	39	41	37	73	152	
営業利益	当期	9	12			22	38	60%
	前期	6	10	11	7	17	36	
	増減率	49.7%	23.3%			33.5%	5.1%	
<利益率>	当期	3.1%	3.8%			3.4%	2.9%	
	前期	2.1%	3.1%	3.3%	2.3%	2.6%	2.7%	
製造	当期	—	—			—		
	前期	—	—	—	—	—	—	
商社	当期	9	12			22		
	前期	6	10	11	7	17	36	

【注力施策】

モビリティソリューションズ事業部

- 電動化関連素材・部品の取扱いを一層拡充
- 北米・インド等の成長市場へのリソース投下促進

車載インバーター用金属インサート成型部品

株式会社アテックスとメキシコで
電動化部品等の製造会社を合弁で設立

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

モビリティセグメントです。

事業の約半分を占める樹脂の販売は、自動車生産台数の減少はあったものの、市況の上昇により増収となりました。また、内外装、およびEV、電動化用の機能素材および機能部品については、販売数量も増加、全体として増収増益となりました。

セグメント概況 生活関連

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - ナガセヴィータは香粧品素材の販売が海外向けの不調により減少したものの、食品素材の販売が好調に推移し全体として販売が増加
  - 中間体・医薬品原料の販売が増加
  - Prinovaグループは食品素材販売の増加に加え、市況が下落していた前年同期と比べて売上総利益率が向上
- 営業利益は、売上総利益が増加したものの、Prinovaグループの貸倒引当金の計上や人件費等の一般管理費増加により、減益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後） 前期実績	進捗率
売上高	当期	728	744			1,473	2,894	51%
	前期	723	673	693	687	1,396	2,777	
	増減率	0.7%	10.7%			5.5%	4.2%	
売上総利益	当期	168	173			342	667	51%
	前期	156	145	163	168	301	634	
	増減率	8.0%	19.0%			13.3%	5.1%	
<利益率>	当期	23.2%	23.3%			23.2%	23.0%	
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%	
製造	当期	136	141			278		
	前期	125	114	133	131	240	505	
商社	当期	32	31			64		
	前期	30	30	30	37	61	129	
営業利益	当期	15	4			19	42	47%
	前期	27	13	19	20	40	80	
	増減率	△ 44.5%	△ 65.7%			△ 51.3%	△ 47.5%	
<利益率>	当期	2.1%	0.6%			1.3%	1.5%	
	前期	3.8%	1.9%	2.8%	3.0%	2.9%	2.9%	
製造	当期	11	2			13		
	前期	23	9	15	12	32	60	
商社	当期	4	1			5		
	前期	4	3	3	8	7	19	

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

【注力施策】

ライフ＆ヘルスケア製品事業部

- 自社製品の拡販に国内外で注力
- 海外グループ基盤・拠点間の連携強化によるクロスセルの拡充
- バイオ素材の拡充
  （NVI※1、NBIC※2のバイオ由来素材の創出
  例：発酵技術で量産化を目指すエルゴチオネイン）
- Prinovaグループの製造の拡大

※1 ナガセヴィータ
※2 ナガセバイオイノベーションセンター

エルゴチオネインに期待される効果

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

生活関連セグメントです。

商社ビジネスは、医薬品原料の販売が好調に推移したことなどにより、売上総利益は増益となったものの、新規ビジネス開発費用の増加などにより、営業利益は減益となりました。

製造ビジネスは、ナガセヴィータの香粧品向け機能素材が、中国市場の不振の影響を受け販売が減少、また、Prinovaグループにおける稼働率の未達、貸倒引当金の計上、人件費など、コストの増加によりまして営業利益は減益となりました。

主要製造子会社概況 －ナガセケムテックス－

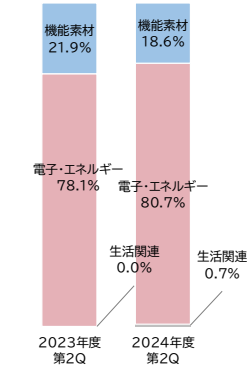
- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - 変性エポキシ樹脂の販売は、生成AI市場の旺盛な需要を受けハイエンドサーバー用半導体向けが好調に推移し、増加
  - ディスプレイ向けフォトリソ材料の販売は減少
- 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後） 前期実績	進捗率
売上高	当期	66	64			130	259	50%
	前期	57	65	66	62	122	251	
	増減率	15.2%	△ 0.4%			6.9%	3.2%	
売上総利益	当期	20	20			41	85	48%
	前期	17	19	21	17	37	75	
	増減率	20.4%	3.3%			11.3%	13.1%	
<利益率>	当期	31.6%	31.5%			31.5%	33.0%	
	前期	30.2%	30.3%	32.0%	27.9%	30.3%	30.1%	
営業利益	当期	7	6			13	28	48%
	前期	5	7	8	0	13	22	
	増減率	43.8%	△ 22.9%			3.8%	25.7%	
<利益率>	当期	11.5%	9.4%			10.5%	10.9%	
	前期	9.2%	12.2%	12.6%	1.6%	10.8%	9.0%	

※ ナガセケムテックスの営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、利益の一部が商社へ計上されます

連結セグメント別
売上総利益割合



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

ここから、主要製造子会社3社の業績をご説明させていただきます。
今回から各社の四半期業績推移、および連結先の各セグメント別の売上総利益の割合をお示ししております。

まず、ナガセケムテックスです。

ナガセケムテックスは、堺ディスプレイプロダクト株式会社、シャープ株式会社の旧堺工場になりますが、そこでオンサイトで薬液供給を行ってまいりましたが、お客様都合によりまして8月末で稼働停止することとなりました。その影響を受け、ディスプレイ向けのフォトリソ材料の販売が減少しましたが、液状封止材の販売が好調に推移したことによりこれをカバーし、増収増益となりました。

主要製造子会社概況 －ナガセヴィーター－

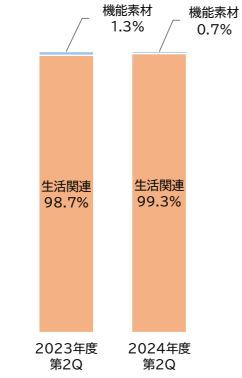
- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - ・ 食品素材の販売は国内外ともに増加
  - ・ 香粧品素材の販売は、最終需要地である中国における需要減少により、減少
- 営業利益は売上総利益の増加はあったものの、人件費等の一般管理費の増加により、減益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後）前期実績	進捗率
売上高	当期	86	87			174	356	49%
	前期	89	80	89	84	170	344	
	増減率	△ 3.4%	9.0%			2.4%	3.7%	
売上総利益	当期	33	32			65	135	48%
	前期	34	28	32	30	62	126	
	増減率	△ 3.8%	13.9%			4.2%	7.2%	
<利益率>	当期	38.2%	36.9%			37.6%	38.0%	
	前期	38.4%	35.3%	36.6%	36.4%	36.9%	36.7%	
営業利益	当期	13	12			25	52	48%
	前期	16	10	14	11	26	52	
	増減率	△ 19.9%	20.5%			△ 4.5%	1.6%	
<利益率>	当期	15.3%	14.0%			14.6%	14.8%	
	前期	18.4%	12.7%	15.7%	13.4%	15.7%	15.1%	
のれん等償却費	当期	7	7			15	29	
	前期	7	7	7	7	15	30	
	増減率	0.0%	0.0%			0.0%	△ 3.4%	
償却費負担後営業利益	当期	5	4			10	23	44%
	前期	8	2	6	3	11	21	
	増減率	△ 37.2%	84.5%			△ 10.7%	8.7%	

※ ナガセヴィータの営業機能の一部を長瀬産業および販売子会社が担っており、利益の一部が商社へ計上されます

連結セグメント別売上総利益割合



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

次にナガセヴィータです。

国内は、食品素材、香粧品素材ともに販売が堅調に推移いたしましたが、海外については、特に香粧品において、最終消費地である中国での需要が減少したことを受け、増収減益となりました。

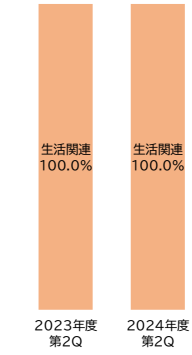
主要製造子会社概況 －Prinovaグループ－

- 売上総利益は主に以下の理由により、増益
  - 食品素材販売において販売数量が増加し、売上総利益率も向上
- 営業利益は製造業における特定顧客の債権回収懸念による貸倒引当金の計上（約13億円）や人件費等の一般管理費増加により、減益

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期累計実績	当期見通し（修正後） 前期実績	進捗率
売上高	当期	504	537			1,041	1,964	53%
	前期	516	473	476	472	989	1,937	
	増減率	△ 2.2%	13.5%			5.3%	1.4%	
売上総利益	当期	99	100			199	376	53%
	前期	87	82	95	96	169	361	
	増減率	14.0%	21.9%			17.8%	4.2%	
<利益率>	当期	19.7%	18.7%			19.2%	19.2%	
	前期	16.9%	17.4%	20.0%	20.3%	17.2%	18.6%	
営業利益	当期	13	0			13	32	42%
	前期	19	13	14	15	32	63	
	増減率	△ 31.7%	△ 96.7%			△ 57.6%	△ 48.1%	
<利益率>	当期	2.7%	0.1%			1.3%	1.7%	
	前期	3.8%	2.8%	3.1%	3.3%	3.3%	3.3%	
のれん等償却費	当期	6	7			13	27	
	前期	6	6	6	6	12	25	
	増減率	12.2%	13.5%			12.9%	5.2%	
償却費負担後営業利益	当期	6	△6			△0	5	－
	前期	13	6	8	8	20	37	
	増減率	△ 51.3%	－			－	△ 84.8%	

連結セグメント別売上総利益割合



※ 2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんでしたが、適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

Prinovaグループです。

商社ビジネスである食品素材販売においては数量が増加。円安の影響もございまして、売上総利益は増加いたしました。

一方、製造ビジネスについては、受注ならびに稼働率が目標レベルに達しなかったことに加え、一般管理費の増加、特定の顧客の債権に回収懸念が生じたことによる約13億円の貸倒引当金の計上などによりまして、営業利益は大幅な減益となりました。

連結貸借対照表

▶ 投資有価証券は政策保有株式の売却(約32億円)や時価下落の影響により、減少

(億円)

	2024年3月末	2024年9月末	増減額	主な増減
流動資産	5,424	5,462	37	
(現金及び預金)	594	544	△49	
(売掛債権)	3,211	3,174	△37	
(棚卸資産)	1,479	1,588	108	
固定資産	2,498	2,504	6	
(投資有価証券)	762	708	△54	
資産の部合計	7,923	7,966	43	
流動負債	3,026	2,917	△109	
(買掛債務)	1,563	1,483	△80	
固定負債	883	932	49	長期借入金+66
負債の部合計	3,910	3,849	△60	
株主資本	3,128	3,147	19	
その他の包括利益累計額	812	899	86	為替換算調整勘定+143
非支配株主持分	72	70	△2	
純資産の部合計	4,013	4,117	104	

運転資本	3,127	3,279	151
自己資本比率	49.7%	50.8%	1.1ppt
有利子負債	1,669	1,684	14
NET D/Eレシオ	0.27	0.28	0.01

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

連結貸借対照表になります。

中期経営計画ACE 2.0の期間中に政策保有株式を300億円売却することを掲げておりますが、この上期、32億円売却いたしました。株価の下落の影響もあり、前期末と比較し投資有価証券を54億円減少しました。運転資本につきましては151億円増加しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

▸ 業績好調による四半期純利益の増加等により営業CFは119億円の収入

（億円）

	2023年度 第2四半期	2024年度 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	382	119
（税引等調整前四半期純利益）	148	230
（有形・無形資産償却費）	79	89
（運転資本の増減）	233	△88
（その他）	△79	△111
投資活動によるキャッシュ・フロー	△64	△108
（固定資産投資）	△82	△76
（その他）	18	△32
フリーキャッシュ・フロー	318	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△366	△110
（自己株式取得による支出）	△66	△94
（配当金の支払い額）	△52	△50
（借入金・社債の増減）	△182	43
（その他）	△64	△8
換算差額	50	△9
現金及び現金同等物の増減額	2	△109

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

連結キャッシュ・フローになります。

営業キャッシュ・フローは、運転資本は増加したものの、税前四半期利益230億円により119億円のキャッシュインとなりました。投資は、固定資産の取得などによりまして、108億円のキャッシュアウトとなりました。財務キャッシュ・フローは、自己株式の取得、支払配当144億円などにより、キャッシュアウトが110億円でした。以上の結果から、キャッシュは109億円減少いたしました。

2024年度 通期業績見通し

- 以下の状況を踏まえ公表の通期業績見通しに変更はないが、セグメント別業績見通しを修正
- 半導体関連ビジネスは、市況の緩やかな回復に加え、生成AIの想定以上の需要増加を受け好調に推移
- 自動車関連ビジネスは、自動車生産台数がやや伸び悩む一方で市況の上昇や収益性の高い機能素材・機能部品の販売増加により好調に推移
- 樹脂販売は、OAやスマホ等の電機・電子業界向けが想定以上に需要回復したことにより好調に推移
- Prinovaグループの不調を主な要因としたフード関連ビジネスは通期でも回復見込めず
- 販売費及び一般管理費は数理差異の償却による退職給付費用の減少はあるが、事業の拡大もあり、全体として増加見込み
  （退職給付の数理差異：2023年度 約9億円の費用、2024年度 約35億円の収益）

（億円）

	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額	前期比
売上高	9,001	9,400	398	104%
売上総利益	1,647	1,800	152	109%
<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt	–
販売費及び一般管理費	1,341	1,435	93	107%
営業利益	306	365	58	119%
<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt	–
経常利益	305	352	46	115%
親会社株主に帰属する当期純利益	224	280	55	125%
US$レート（期中平均）	@ 144.6	@ 148.0	@ 3.4	円安
RMBレート（期中平均）	@ 20.1	@ 20.0	@ 0.1	円高

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

2024年度の通期業績見通しです。

激しい外部環境、不安定要因の多い状況を踏まえまして、期初公表しました通期業績は据え置きとしております。セグメント別に濃淡があるため、セグメントの業績見通しは修正いたしました。
その点につきましては、次のページでご説明させていただきます。

2024年度 セグメント別業績見通し（修正あり）

- 機能素材は塗料原料の販売増加、半導体業界向けの原料販売の増加に加え、カラーフォーマー事業の損益改善が想定以上に進んでおり上方修正
- 加工材料は主にOA等の電機・電子業界向けの想定以上の需要回復を受け、樹脂販売が堅調に推移しており、上方修正
- 電子・エネルギーは半導体業界向け材料販売の好調に加え、ナガセケムテックスのハイエンドサーバー用半導体向けの変性エポキシ樹脂販売が想定以上に好調に推移していることにより上方修正
- モビリティは自動車生産台数の減少はあるものの、市況の上昇を受けた収益性の改善に加え、機能素材・機能部品の販売好調を受け上方修正
- 生活関連はPrinovaグループの食品素材販売は堅調に推移している一方で、貸倒引当金の計上や製造業が想定以上に不調に推移していることにより下方修正

（億円）

		2023年度 実績	2024年度 見通し（修正前）	2024年度 見通し（修正後）	増減額	増減率
機能素材	売上高	1,468	1,550	1,588	38	2%
	売上総利益	281	306	326	20	7%
	<利益率>	19.2%	19.7%	20.5%	0.8ppt	–
	営業利益	61	68	86	18	26%
	<利益率>	4.2%	4.4%	5.4%	1.0ppt	–
加工材料	売上高	1,985	2,072	2,049	△23	△1%
	売上総利益	236	248	255	7	3%
	<利益率>	11.9%	12.0%	12.4%	0.5ppt	–
	営業利益	53	55	59	4	7%
	<利益率>	2.7%	2.7%	2.9%	0.2ppt	–
電子・エネルギー	売上高	1,447	1,493	1,542	49	3%
	売上総利益	342	377	386	9	2%
	<利益率>	23.6%	25.3%	25.0%	△0.2ppt	–
	営業利益	88	86	108	22	26%
	<利益率>	6.1%	5.8%	7.0%	1.2ppt	–
モビリティ	売上高	1,321	1,387	1,326	△61	△4%
	売上総利益	152	160	165	5	3%
	<利益率>	11.5%	11.5%	12.4%	0.9ppt	–
	営業利益	36	32	38	6	19%
	<利益率>	2.7%	2.3%	2.9%	0.6ppt	–
生活関連	売上高	2,777	2,897	2,894	△3	△0%
	売上総利益	634	710	667	△43	△6%
	<利益率>	22.8%	24.5%	23.0%	△1.5ppt	–
	営業利益	80	94	42	△52	△55%
	<利益率>	2.9%	3.2%	1.5%	△1.8ppt	–
その他・全社	売上高	1	1	1	0	0%
	売上総利益	0	△1	1	2	–
	営業利益	△13	30	32	2	7%
連結合計	売上高	9,001	9,400	9,400	–	–
	売上総利益	1,647	1,800	1,800	–	–
	<利益率>	18.3%	19.1%	19.1%	–	–
	営業利益	306	365	365	–	–
	<利益率>	3.4%	3.9%	3.9%	–	–

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

セグメント別の業績見通しになります。

5つのセグメントのうち4つのセグメント、機能素材セグメント、加工材料セグメント、電子・エネルギーセグメント、モビリティセグメントにおいて、営業利益を上方修正しております。一方、生活関連セグメントが下方修正となっています。
大きく上方修正となった機能素材セグメント、ならびに電子・エネルギーセグメントについてご説明いたします。

機能素材セグメントについては、ご説明していますとおり、ケミカル全般で市況の上昇により増収。加えて、日米のカラーフォーマー事業の損失削減が進捗したこと、および海外での一過性利益の計上もあり、営業利益で18億円上方修正いたしました。

電子・エネルギーセグメントは、半導体業界の回復にはばらつきがあるものの、AI半導体およびハイエンドスマホ向けの製品ならびに材料の販売が好調に推移し、営業利益で22億円上方修正いたしました。

一方、生活関連セグメントは、先ほど来申し上げましたとおり、Prinovaグループにおいて想定以上に受注が進まず、稼働率の目標達成が厳しいことに加えまして、貸倒引当金の計上、一般管理費の上昇により、営業利益で52億円下方修正いたしました。

2024年度 主要製造子会社の業績見通し（修正あり）

- ナガセケムテックス：ディスプレイ向けフォトリソ材料およびモバイル機器向け変性エポキシ樹脂の販売が想定以上に減少したものの、生成AI市場の旺盛な需要によるハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂が想定以上に好調に推移していることを受け、上方修正
- ナガセヴィータ：食品素材、国内向け香粧品素材の販売は好調も、海外向けの香粧品素材の販売が需要減少により想定以上に減少したことにより下方修正
- Prinovaグループ：食品素材の販売は数量が増加したものの、貸倒引当金の計上や製造業の不調により下方修正

（億円）

		2023年度実績	2024年度見通し（修正前）	2024年度見通し（修正後）	増減額	増減率
ナガセケムテックス	売上高	251	261	259	△2	△1%
	売上総利益	75	80	85	5	7%
	<利益率>	30.1%	30.7%	33.0%	2.4ppt	–
	営業利益	22	26	28	1	5%
	<利益率>	9.0%	10.3%	10.9%	0.6ppt	–
ナガセヴィータ	売上高	344	369	356	△13	△4%
	売上総利益	126	140	135	△4	△3%
	<利益率>	36.7%	37.9%	38.0%	0.1ppt	–
	営業利益	52	57	52	△4	△7%
	<利益率>	15.1%	15.4%	14.8%	△0.6ppt	–
	のれん等償却費	30	29	29	0	–
	償却費負担後営業利益	21	27	23	△4	△15%
Prinova グループ	売上高	1,937	2,091	1,964	△126	△6%
	売上総利益	361	421	376	△45	△11%
	<利益率>	18.6%	20.2%	19.2%	△1.0ppt	–
	営業利益	63	81	32	△48	△60%
	<利益率>	3.3%	3.9%	1.7%	△2.2ppt	–
	のれん等償却費	25	27	27	0	–
	償却費負担後営業利益	37	54	5	△48	△89%

※ Prinovaグループの2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんでしたが、適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

主要製造子会社の業績見通しとなります。

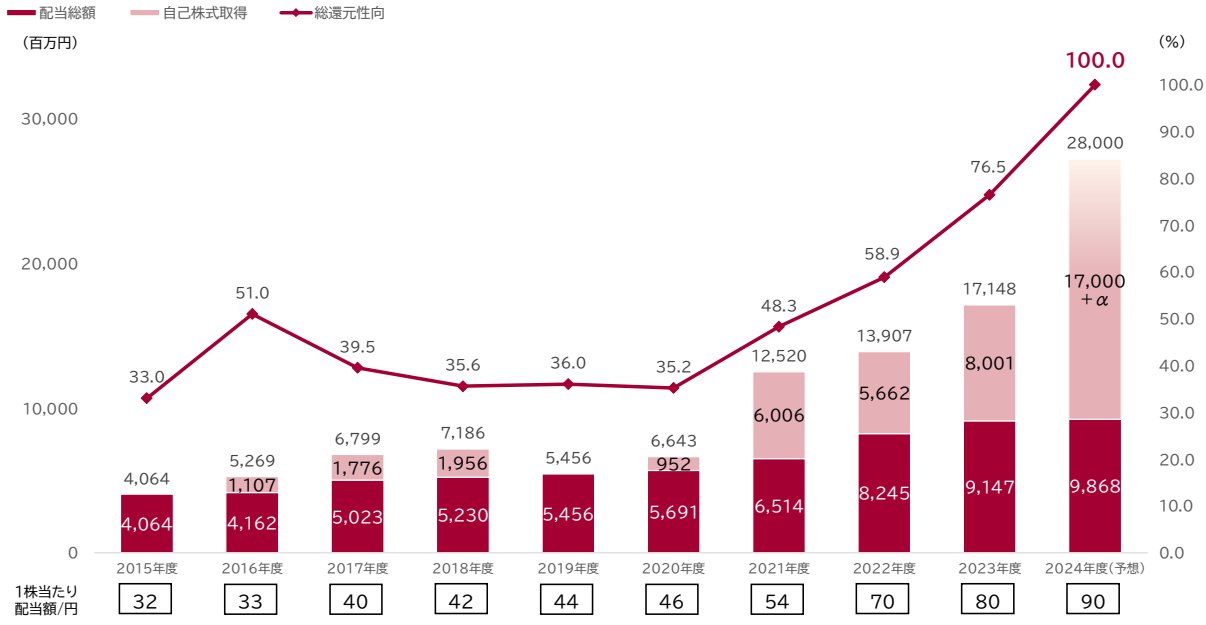
ナガセケムテックスは、中国のミドルエンドスマホ用のシート状エポキシが下期も厳しい状況が続くものの、AI半導体用の液状封止材の販売が引き続き好調に推移すると見込んでおり、期初公表の見通しより上方修正しております。

ナガセヴィータは、国内向けの食品素材や香粧品素材は想定どおりである一方、中国需要の減少によりまして海外向け香粧品素材の販売が想定を下回り、下方修正いたしました。

Prinovaグループは、先ほどからご説明しておりますとおり、スポーツニュートリションの受託製造事業が低調に推移していること、第2四半期に貸倒引当金13億円を計上したことなどにより、下方修正いたしました。

株主還元状況

- 2024年度の1株当たり配当金は中間配当を当初予定の40円から5円増配し、中間45円、期末45円の年間90円を予定（15期連続増配見通し）
- 2024年度、2025年度**総還元性向100%**の方針に変更なし
- 2024年5月に決議した100億円の自己株式取得は、10月で完了
- 2024年11月に70億円の自己株式取得を決議（期間：2024年11月～12月を予定）



※ 2024年度の期末配当金は、2025年6月開催予定の第110回定時株主総会に附議予定です。

NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

株主還元状況になります。

5月に公表させていただきましたが、2024年度、2025年度の株主還元方針として、総還元性向100%を掲げております。自己株式取得につきましては、5月に公表した100億円の取得は10月で完了しております。昨日、公表いたしましたが、新たに自己株式取得70億円を進めてまいります。

また、配当につきましては、1株当たり中間配当を、当初予定の40円から5円増配し、中間45円、期末45円、年間90円を予定しており、15期連続の増配となる見込みです。

中期経営計画 **ACE 2.0**について

■ 中期経営計画 **ACE 2.0** 基本方針	P26
■ 将来に向けた成長戦略	P27
■ 半導体分野の取組み	P28
■ ライフサイエンス分野の取組み	P29
■ フード分野の取組み －Prinovaグループの状況－	P30
■ グローバルサウスの取組み	P31
■ 改善領域　2024年度上期の進捗	P32
■ 2024･2025年度のキャッシュアロケーション	P33
■ 効率性の追求 －株主還元－	P34
■ サステナビリティ関連の取組み	P35
■ サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し	P36

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

中期経営計画 **ACE 2.0** 基本方針

ビジネスをデザインするNAGASEへ

ACE 2.0“質の追求”

A（主体性） C（必達） E（効率性）のマインドを持ち、
NAGASEの持続的な成長を可能にするため、
すべてのステークホルダーが期待する“想い”を 具体的な“形”（事業・仕組み・風土）として創出する
（質） （追求）

収益構造の変革

“ありたい姿”に向けた収益基盤の構築

① 収益性・効率性の追求
- 全社規模の事業入替と資源再配分の実施

② 既存事業の強化
- グローバリゼーションによる事業機会の拡大
- 製造業の生産性向上と技術革新による付加価値の拡大

③ “持続可能な事業” の創出

企業風土の変革

“ありたい姿”に向けたマインドセット

① 経済価値と社会価値の追求
- サステナビリティマインドの醸成と
  財務／非財務情報のモニタリング徹底

② 効率性の追求
- 資本効率性への意識の深化
- コア業務の生産性の向上

③ 変革を推進する人財の強化

変革を支える機能

① DXの更なる加速 **② サステナビリティの推進** **③ コーポレート機能の強化**

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

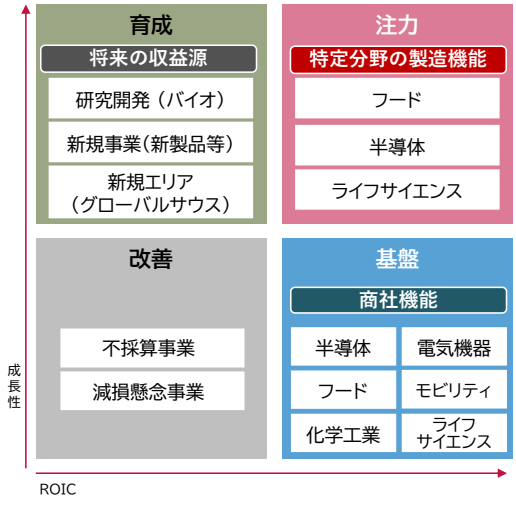
こちらから、中期経営計画**ACE 2.0**についてご説明をさせていただきます。

中期経営計画**ACE 2.0**の基本方針の再掲です。変更はございません。

将来に向けた成長戦略

注力領域である製造機能(フード・半導体・ライフサイエンスの3分野)に積極投資し、
中長期的な利益規模・利益率の向上を狙う

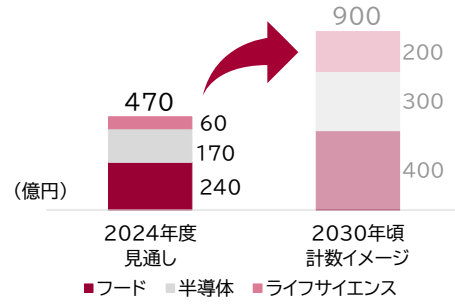
注力・育成領域に対する潜在的投資額
約800億円 (M&Aや設備投資)



基盤 注力領域と育成領域の強化に繋がるキャッシュと付加価値の高い情報を獲得

育成 将来の収益源となる分野で、新たなチャレンジを進める

注力 **注力領域の売上総利益を概ね倍へ増やす**



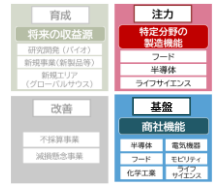
改善 損失を削減(詳細はP.32)

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

こちらは、昨年公表しましたNAGASEの将来に向けた成長戦略です。

注力領域であるフード、半導体、ライフサイエンス分野の製造機能においては、積極的にリソースを投入し収益の拡大を図ります。2030年ごろまでに売上総利益をおおむね倍に増やしたいと考えています。内訳としましては、フード分野400億円、半導体分野300億円、ライフサイエンス分野200億円をイメージとしております。

半導体分野の取組み



注力領域は最先端半導体向け封止材でデファクトスタンダードを確立し、基盤領域は商権を拡大

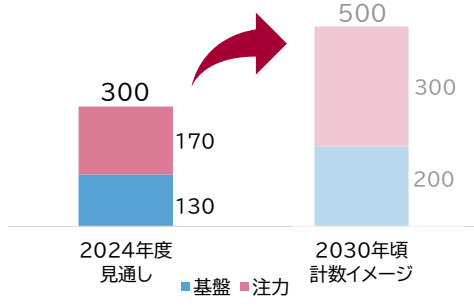
注力領域

・最先端半導体用の封止材（LMC/a-SMC）で、デファクトスタンダードのポジションを確立
・現像液を回収・再生するシステムで環境に配慮した提案を推進、拡大

基盤領域

・Rapidus株式会社の取りまとめ業者などで商権をさらに拡充、海外展開にも活用
・化学品取扱（運送・保管、輸出入）のノウハウ、サプライチェーンマネージメントの強化

半導体事業の売上総利益 （億円）



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

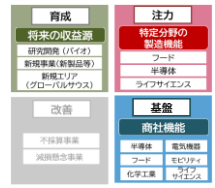
ここから、半導体、ライフサイエンス、フードの順に、各分野における取り組みについてご説明をさせていただきます。

まず、半導体分野です。当社の半導体事業は、製造ビジネス、商社ビジネス合わせて、売上総利益で300億円程度の規模です。これを500億円までの拡大を目指してまいります。事業拡大に向けて三つの戦略で進めてまいります。一つ目は半導体用の封止材です。AI半導体が成長を牽引する先端用途に特化し、液状封止材ならびに次世代のシート状封止材で、デファクトスタンダードを取っていきたいと考えています。

二つ目に、液晶業界で培った技術を生かし、半導体業界での環境課題を解決するべく、製造プロセスで使用する薬液の回収・再生事業を進めてまいります。

三つ目に、商社ビジネスですが、Rapidusの取りまとめ事業をスタートするなど、ネットワークをグローバルに拡大し、国内だけでなく海外での商権の獲得も進めてまいります。

ライフサイエンス分野の取組み



M&Aで診断薬事業が加わることが決定
育成領域で新しい素材を開発し事業拡大を目指す

注力領域

・ナガセヴィータ及びナガセケムテックスの素材・技術で医薬品、香粧品領域での事業を拡大
（AA2G®、プルラン、トレハロースSG、ヘスペリジンなど）

基盤領域

・各国の法規制に対応する体制を整え、グローバルでのネットワークを拡充

育成領域

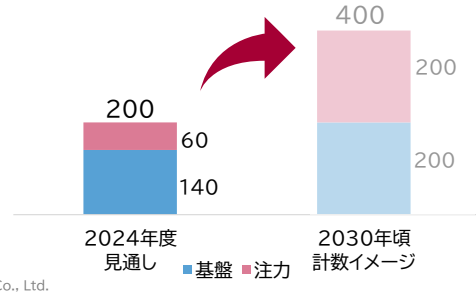
・発酵技術を用いたエルゴチオネインの量産を開始

旭化成ファーマより診断薬事業などを買収

注力	大仁医薬工場での酵素の製造事業を獲得
基盤	商材の拡充、ブラジル・ASEAN・インドで同社品を展開、海外販売で事業成長を狙う
＋	
育成	NAGASEグループの医薬関連事業を集約

2030年頃に売上総利益40億円規模を目指す

ライフサイエンス分野の売上総利益 （億円）



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

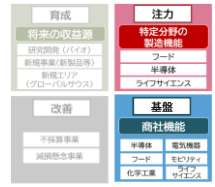
次にライフサイエンスです。

ライフサイエンス分野は、製造ビジネス、商社ビジネス合わせ、売上総利益で200億円規模から400億円規模まで拡大を目指します。

注力領域の製造ビジネスにおいては、ナガセヴィータのAA2G®、プルラン、そしてトレハロースSGといった商品で、香粧品、医薬品向けの市場拡大を進めてまいります。
また、来年度以降、開発商品のエルゴチオネインの量産化を進めてまいります。エルゴチオネインは希少アミノ酸の一種で、強力な抗酸化作用を有しております。現在、認知症予防などの効果が期待されています。

さらに、9月にリリースさせていただきましたが、旭化成ファーマ株式会社の診断薬事業を買収することを決定いたしました。来年7月1日を効力発効日として当社グループとなる予定です。診断薬事業は、当社の持つ海外のネットワークを生かし、グローバルな事業拡大を目指してまいります。また、同社にNAGASEグループで行っているエンドトキシンフリー化合物などの医薬関連事業を集約してまいります。売上総利益の規模としましては、2030年頃、40億円をイメージしております。

フード分野の取組み －Prinovaグループの状況－



スポーツニュートリション市場の拡大基調は変わらず
早期にユタ工場の利益貢献体制の整備を進める

製造業

・主要顧客がシェアを落としており利益貢献には時間を要するが、新たに拡がる製品群で新規顧客獲得を進める
・健康志向の消費者など新たなカテゴリーの開拓も取り込む

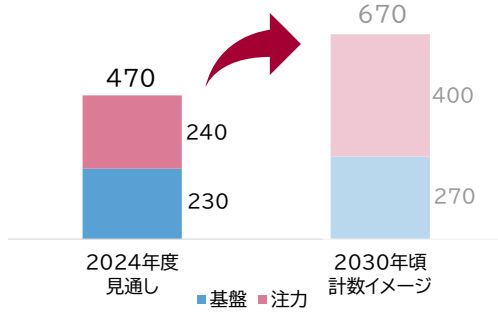
新たな取組みを進める製品群

Pea Protein	Beauty	GREENS
大豆アレルギー対応品	健康維持 美容と健康	ビタミン等の栄養素

商社業

・食品素材における独自の調達力を活かし、北米、欧州に続き南米、アジアへの事業拡大を進める

フード分野の売上総利益 （億円）



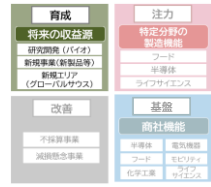
Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

フード分野の取り組みです。

フード分野については、470億円の売上総利益から670億円まで拡大を目指してまいります。こちらでは、フード分野を牽引するPrinovaグループの状況についてご説明をさせていただきます。

商社ビジネスにおいては、Prinovaグループの食品素材における調達力を生かしまして、北米、ヨーロッパから今後、南米、東南アジアへの事業拡大を進めてまいります。また、製造ビジネスにおいては、生産性改善を継続し、新たなカテゴリーの新規顧客を開拓することによって、稼働率を向上させてまいります。

グローバルサウスにおける取組み



インド、メキシコ、ブラジル、インドネシアの4カ国で
新たなビジネスを早期に収益化し、ポートフォリオの転換を加速

メキシコ

自動車業界で日系OEMや、電気・電子業界で日系メーカーや台湾EMSの進出が進む。株式会社アテックスと自動車電動化部品等の製造会社を合弁で設立。

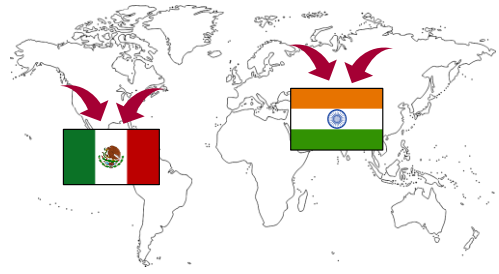
ATECS INSERT MOLDING MEXICO S.A. DE C.V.の設立

インド

製造業が拡大するインドにおいては、樹脂販売で人的リソース投入中。家電、スマホ、自動車、半導体　関連事業の商権獲得。

中国、ASEANからインドへの製造拠点のアロケーションに
対応する樹脂販売体制の拡充

進捗した2カ国



Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

次に育成領域です。

育成領域の一つにグローバルサウスでのビジネスの創出を掲げております。NAGASEグループは、インド、メキシコ、ブラジル、インドネシアの4カ国をグローバルサウスとして注力していきます。今回はメキシコとインドでの取り組みをご紹介させていただきます。

自動車産業の成長が著しいメキシコにおいて、現在、日本と中国で電動化関連部品の製造事業を共同で進めているアテックス社と合弁会社を立ち上げ、2026年より製造を開始いたします。

また、インドでは今後拡大する家電、携帯、自動車向けの樹脂販売に向け、人的資本の投入を加速し、将来の市場に向けた基盤づくりを進めるとともに、商権の獲得を進めてまいります。

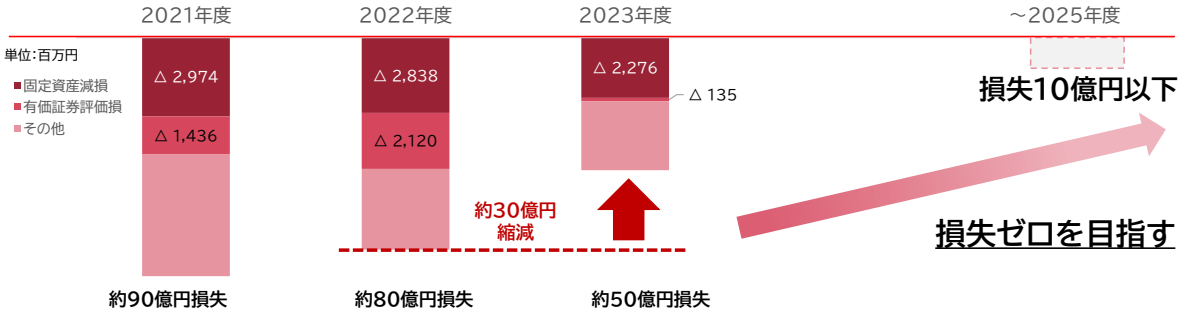
改善領域 2024年度上期の進捗

経営判断で速やかに成果を出せる領域として、ROIC改善に向け早々に着手

改善対象・取組み

1.事業子会社の営業損失および関連会社の持分法損失	早期に改善プランを策定し、実行。改善が見込めないものは撤退検討
2.減損損失懸念資産	減損リスクのある資産に対するモニタリングを強化し、減損をミニマイズ
3.不採算取引	全件リストアップしモニタリング。改善が見込めないものは商権返上

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



カラーフォーマー事業:米国・日本ともに大幅に営業損失を削減

- 米国は、製造販売拠点であるSOFIX LLCの生産を停止し会社清算を決定。2023年度の営業赤字は約11億円
- 日本は、製造子会社の福井山田で不採算取引縮小により通期黒字化を目指す。2023年度の営業赤字は約4億円

計 約15億円

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

次に改善領域です。

2021年度には90億円あった損失を、2023年度は50億円まで改善してまいりました。

第1四半期決算説明の際にご説明のとおり、今期は米国におけるカラーフォーマー事業の撤退を決定し、作業を完了いたしました。

また、日本においても内部努力により、効率性、収益性の改善を図り、カラーフォーマー事業全体で15億円の損失削減となる見込みです。引き続き、不採算事業の見直しを図っており、2025年度までに損失10億円以下を目標に改善を進めてまいります。

2024・2025年度のキャッシュアロケーション

有利子負債を活用し、成長投資と株主還元の双方を推進

キャッシュイン

調整後営業CF
- ▸ 営業利益に減価償却やR&D等の投資性の費用を戻し入れ
- ▸ 運転資金の増減は加味せず

資産入替
- ▸ 政策保有株の縮減等

有利子負債の調達拡大
- ▸ 格付け維持が可能な範囲で調達

キャッシュアウト

成長投資
- ▸ 数百億円規模のM&Aは逐次検討
- ▸ 注力領域3分野の特定機能の強化、ミッシングパーツを獲得
- ▸ R&D 毎年約60億円　等

継続増配・総還元性向100%
- ▸ 純資産は4,000億円前後でコントロール

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

次に、キャッシュアロケーションについてご説明をさせていただきます。
2024年度と2025年度、2年間のキャッシュアロケーションの計画となります。

まず、キャッシュインとして、事業成長によりまして営業キャッシュ・フローを800億円から900億円とし、政策保有株式の売却や不採算事業、減損懸念事業の整理も進めまして、資産の入れ替えを加速していきます。

次にキャッシュアウトですが、成長投資として1,500億円。こちらには数百億円規模のM&A、研究開発費、営繕費用、運転資金の増加などが含まれます。

株主還元につきましては、この2年間、総還元性向100%を掲げておりますので、その方針に沿って還元を進めてまいります。また、成長投資や株主還元実施にあたり不足する部分は負債を活用してまいります。基本的には、格付けAフラットの維持をベースとし調達していく方針です。

効率性の追求 －株主還元－

- 2024年度の1株当たり配当金を、当初予定の85円(前期比＋5円)から、90円(前期比＋10円)へ増額
- 総還元性向100%の達成に向け、追加の自己株式取得70億円(期間:2024年11月～12月を予定)を決議

2024年度の配当を増額

当初予定	85円
	⬇ ＋5円
変更後	**90円**

株主還元方針　変更なし

総還元性向	**100%**
配当	**原則継続増配** ※変更なし
自己株式取得	**機動的に実施**

株主還元の実績及び見通し

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 見通し	2025年度 見通し
1株当たり配当金(円)	54	70	80	90	－
(中間+期末)	(24+30)	(30+40)	(40+40)	(45+45)	－
自己株式取得(億円)	60	56	80	100＋70＋α	－
総還元性向(%)	48.3	58.9	76.5	100%	100%

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

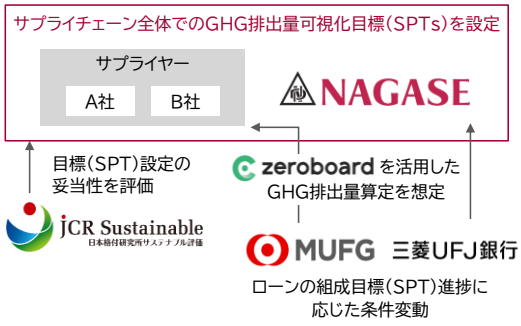
次に株主還元についてです。

先ほどご説明させていただきましたとおり、株主還元方針に変更はありません。
ACE 2.0でKGIと掲げるROE8.0%以上を常態化できるように、事業成長による利益向上に加えまして、資本の適正化を図ってまいります。

サステナビリティ関連の取組み

サステナビリティ・リンク・ローン実行

契約締結日:10月28日
借入実行日:10月31日
期間:10年
アレンジャー/エージェント:(株)三菱UFJ銀行
貸出人:16社
組成金額:200億円
利率:設定したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)の達成状況に応じて変化



SBT※コミットメントレター提出

・長瀬産業株式会社は2024年9月にSBTの短期目標に関する認定取得に向け、SBTイニシアチブに対し、コミットメントレターを提出
・SBT認定取得に取り組み、パリ協定と整合性した目標を設定し、サプライチェーンにおける脱炭素を推進

※SBT(Science Based Targets)パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標

評価機関		最高値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
FTSE		5.0	1.2	1.9	2.7	3.5	4.2
MSCI		AAA	BB	BB	BBB	A	A
CDP	Climate Change	A	C	B	B	A-	A-
	Water	A	C	B	A-	A	A
	Forest	A	C-	C	C	B	B
	Supply Chain Engagement	A	D	B	B	A	A
Ecovadis [NAGASEグループ]		Platinum (100)	– (41)	Bronze	– (43)	Bronze	Silver

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

次にサステナビリティに関する取り組みをご説明させていただきます。

サステナビリティ・リンク・ローンについてですが、三菱UFJ銀行様と日本格付研究所様とフレームワークを構築し、そのフレームワークに沿った借入を実行いたしました。

次に、SBT認証取得に向けコミットメントレターを提出いたしました。2年以内のSBT認証取得を目指してまいります。外部機関からの評価推移は記載のとおりですのでご参照ください。

サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し

- **ACE 2.0**策定時に設定したマテリアリティを2024年9月に更新
- マルチステークホルダー表記へと変更すると同時に、簡潔な文言へと変更することで全従業員の意識への定着を図る
- 従業員エンゲージメントとカーボンニュートラルに関する指標に加え、事業系の非財務目標の設定を検討中

従来

	提供価値	マテリアリティ（重要課題）	関連するSDGs
従業員	・安全で働きやすい職場環境 ・従業員が明るく、楽しく、活き活きと仕事が出来る環境 ・従業員とその家族が誇りを持って語れる企業集団	【多様な人財の活用、職場環境と企業文化の提供】 ・先進技術を用いた生産性向上や多様な人財の活用 ・グループとして多様な背景を持つ従業員が、お互いを尊重し、活性化し合う職場環境の提供と企業文化の醸成	
取引先	・取引先を深く理解し、幅広い可能性を追求できる協力関係の構築 ・バリューチェーン全体で取組むべき課題や社会課題に対するソリューション	【先端技術を活用した新たな価値創造】 ・先端技術と取引先ネットワークを活用した新たな価値創造 ・複雑性が高まる取引先課題の真因理解に基づく、幅広い解決手法の提供	
社会・消費者	・適法・倫理経営を実践し、地域社会の発展に貢献 ・サプライチェーンに関わる人々の権利、健康、快適さに配慮 ・安心・安全で温もりのある社会実現に向けた製品・サービス	【社会・環境課題の解決とグローバリゼーション】 ・気候変動、食料・水不足等、安心・安全を脅かす課題の解決 ・食の安全の確保・向上にバイオやAI等の先端技術を活用して貢献 ・先進国を中心とした高齢化進行による健康維持に対する需要の充足 ・グローバリゼーションの加速、地域毎の社会課題解決への寄与	
株主	・透明性の高い経営体制と適時・適正な情報開示による信頼と安心 ・経済価値・社会価値の向上を両立し、継続的な事業創造による企業価値の最大化	【コーポレート・ガバナンス】 ・透明性の高いコーポレート・ガバナンスを確立 ・経済価値と社会価値の両立による持続的な企業価値向上	

NAGASEグループのマテリアリティ及び関連するSDGs

大きな影響を及ぼす外部環境変化

- 人財の多様化
- 人口動態変化
- 気候変動と資源不足
- 食糧・水不足
- グローバリゼーション
- 天然資源枯渇
- 気候変動と資源不足
- 地政学リスク
- 人権意識の高まり

- 従業員エンゲージメント向上
- 脱炭素社会への貢献
- 健康寿命延伸への貢献
- サプライチェーンの持続性への貢献
- 資源循環社会への貢献
- 透明性の高いコーポレート・ガバナンス

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

最後に、**ACE 2.0**策定時に掲げましたマテリアリティの見直しを行いましたので、ご報告をさせていただきます。

従来は、ステークホルダーごとにマテリアリティを策定しておりましたが、今回はNAGASEらしい、NAGASEだからできる重要な社会課題は何かを社内で議論し、見直しを進めてまいりました。われわれが事業を通して貢献できる重要課題として、健康寿命の延伸、サプライチェーンの持続性、資源循環社会の実現の三つを追加しております。

説明は以上となります。株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と認識するとともに、将来への成長投資とバランスを取りながら経営を進めてまいります。
引き続きNAGASEグループをよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

NAGASE | Delivering next.

■お問合せはこちらから

https://www.nagase.co.jp/contact/

■当社ウェブサイト　投資家情報ページ

https://www.nagase.co.jp/ir/

当プレゼンテーション資料には、2024年11月7日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

再掲：資本コストや株価を意識した経営 ―2023年度期末 決算説明会資料より―

企業価値向上に向けた方針

中期経営計画 ACE 2.0で掲げる成長戦略、財務・資本戦略の遂行

現状の課題認識

- 2007年度以降**PBRは1倍割れの状態**
- 株主資本コストは投資家との対話から**8.0%以上**
- 純資産に対する政策保有株式の割合が約15%

取組み事項

収益性・効率性

- ROIC経営の浸透：売上総利益率および資本回転率の向上
- 改善領域における不採算事業・不採算取引を削減
- 政策保有株式の段階的な削減

資本コスト

- 株主還元拡充：2年間限定で総還元性向100%
- 成長投資における負債の活用

IR活動

- 積極的な情報開示、投資家との対話を拡充

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移 ーその他・全社配賦前ー

- 2024年度より、その他・全社のうち長瀬産業単体の一部を除く全社共通経費を各事業部に配賦する運用を開始
- 全社共通経費を配賦し、各事業部の収益性をより実態に近い形で把握できる体制へと変更
- 本ページでは参考情報としてその他・全社配賦前の四半期推移を記載

（億円）

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
連結合計							
売上高	当期	2,392	2,417			4,809	9,400
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	4,501	9,001
	増減率	6.8%	6.9%			6.8%	4.4%
売上総利益	当期	457	463			921	1,800
	前期	387	401	425	432	788	1,647
	増減率	18.3%	15.3%			16.8%	9.3%
<利益率>	当期	19.1%	19.2%			19.2%	19.1%
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.5%	18.3%
営業利益	当期	107	103			210	365
	前期	69	75	85	75	144	306
	増減率	54.3%	37.1%			45.4%	19.2%
<利益率>	当期	4.5%	4.3%			4.4%	3.9%
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.2%	3.4%

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
加工材料（ポリマーグローバルアカウント事業部）							
売上高	当期	535	546			1,082	2,049
	前期	485	536	477	485	1,022	1,985
	増減率	10.2%	1.9%			5.9%	3.2%
売上総利益	当期	65	65			130	255
	前期	54	61	61	57	116	236
	増減率	20.1%	5.4%			12.3%	8.0%
<利益率>	当期	12.3%	11.9%			12.1%	12.4%
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.4%	11.9%
営業利益	当期	20	23			43	80
	前期	13	19	20	15	32	68
	増減率	50.2%	20.8%			32.8%	17.6%
<利益率>	当期	3.8%	4.3%			4.0%	3.9%
	前期	2.8%	3.6%	4.2%	3.1%	3.2%	3.4%

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
モビリティ（モビリティソリューションズ事業部）							
売上高	当期	321	338			660	1,326
	前期	311	337	353	319	649	1,321
	増減率	3.1%	0.4%			1.7%	0.4%
売上総利益	当期	40	43			83	165
	前期	34	39	41	37	73	152
	増減率	17.8%	9.9%			13.5%	8.3%
<利益率>	当期	12.5%	12.9%			12.7%	12.4%
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.4%	11.5%
営業利益	当期	13	16			30	57
	前期	9	13	14	10	23	49
	増減率	44.6%	17.2%			28.3%	15.5%
<利益率>	当期	4.3%	4.8%			4.6%	4.3%
	前期	3.0%	4.1%	4.2%	3.4%	3.6%	3.7%

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
機能素材（機能化学品事業部/スペシャリティケミカル事業部）							
売上高	当期	405	388			794	1,588
	前期	364	357	375	370	721	1,468
	増減率	11.4%	8.7%			10.0%	8.2%
売上総利益	当期	88	81			170	326
	前期	64	68	73	75	132	281
	増減率	37.8%	19.9%			28.5%	15.9%
<利益率>	当期	21.8%	21.1%			21.4%	20.5%
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	18.4%	19.2%
営業利益	当期	37	31			68	121
	前期	15	21	25	24	36	86
	増減率	140.7%	46.9%			86.3%	40.2%
<利益率>	当期	9.1%	8.0%			8.6%	7.6%
	前期	4.2%	6.0%	6.7%	6.6%	5.1%	5.9%

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
電子・エネルギー（エレクトロニクス事業部/先進機能材料事業部）							
売上高	当期	400	398			799	1,542
	前期	355	356	375	360	712	1,447
	増減率	12.8%	11.7%			12.3%	6.5%
売上総利益	当期	95	97			193	386
	前期	77	86	85	92	163	342
	増減率	23.7%	13.4%			18.3%	12.8%
<利益率>	当期	23.8%	24.5%			24.2%	25.0%
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	23.0%	23.6%
営業利益	当期	34	38			73	143
	前期	23	31	27	31	54	113
	増減率	50.6%	24.4%			35.6%	26.2%
<利益率>	当期	8.7%	9.7%			9.2%	9.3%
	前期	6.5%	8.7%	7.3%	8.8%	7.6%	7.8%

四半期実績						第2四半期	当期見通し（修正後）
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	前期実績
生活関連（ライフ＆ヘルスケア製品事業部）							
売上高	当期	728	744			1,473	2,894
	前期	723	673	693	687	1,396	2,777
	増減率	0.7%	10.7%			5.5%	4.2%
売上総利益	当期	168	173			342	667
	前期	156	145	163	168	301	634
	増減率	8.0%	19.0%			13.3%	5.1%
<利益率>	当期	23.2%	23.3%			23.2%	23.0%
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%
営業利益	当期	21	9			31	71
	前期	32	19	24	26	51	103
	増減率	△ 34.8%	△ 48.2%			△ 39.8%	△ 31.2%
<利益率>	当期	2.9%	1.3%			2.1%	2.5%
	前期	4.5%	2.9%	3.6%	3.9%	3.7%	3.7%

※各費用に以下のいずれかの基準を用いて7事業部に配賦
①各事業部に均等配賦
②各事業部の事業規模（売上高、売上総利益）に応じて配賦

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

2021年度～2023年度の主要なキャッシュイン・アウト実績

（億円）

キャッシュ・イン	2021年度	2022年度	2023年度	3カ年累計	キャッシュ・アウト	2021年度	2022年度	2023年度	3カ年累計
調整後営業CF※	525	363	476	1,364	配当・自己株式取得	124	139	178	442
政策保有株式売却等による収入	92	96	71	260	DX・研究開発等への投資	71	68	78	218
運転資本の減少	―	―	330	330	運転資本の増加	631	200	―	831
有利子負債の増減による収入	401	―	―	401	有利子負債の増減による支出	―	25	234	260
その他収入	7	9	9	26	その他の成長投資等	156	173	188	518
					その他支出	25	20	76	121
合計	1,026	469	888	2,384	合計	1,008	628	756	2,392

※運転資本の増減、費用計上されているDX・研究開発費等の影響を控除した営業CF

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.